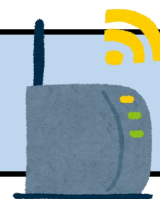


Wi-Fiルーターのボット感染増加中



◎感染の増加を観測

情報通信研究機構(NICT)のサイバーセキュリティ研究室から、Buffalo社製Wi-Fiルーターのボット(ウイルス)感染が増加していることが報告されました。

「WHR-1166DHP」シリーズへの感染が多いとのことですが、そのほかのシリーズや、他メーカー製のWi-Fiルーターについても以前から継続して狙われておりますので、Wi-Fiルーターをインターネット回線用にご利用の方は

- ・最新版ファームウェアへのアップデート
- ・管理画面の公開設定の見直し
- ・管理用ID、パスワードの見直し



をお願いします。

◎Wi-Fiルーターがサイバー攻撃の踏み台に

これまで、NWカメラやNASなどのIoT機器が感染する事例を何度かご紹介してきましたが、設置台数やインターネットへの近さから見ると、Wi-Fiルーターが最も狙われやすいと言えます。

機器が感染すると

- ・他の組織などに対するサイバー攻撃の踏み台として使われる
- ・企業LANの情報が漏えいしたり、ランサムウェアに感染する

などの被害に遭うことがあり、いずれも業務上の大きなリスクとなりますので、適切な管理をお願いします。

◎関連リンク

- ・ X NICTER解析チーム
https://x.com/nicter_jp/status/1792794377691283645
- ・ 株式会社バッファロー「NICTERの投稿に関する重要なお知らせ」
<https://www.buffalo.jp/news/detail/20240522-01.html>
- ・ 総務省NOTiCEプロジェクト
<https://notice.go.jp/>

